



「放課後等デイサービス てくてく」についてのお問い合わせ

〒879-4403 玖珠町大字帆足256番地の5
NPO法人 放課後等クラブてくてく
☎0973-77-2650

令和2年6月に児童福祉法に基づく、障がいのある就学児童を対象とした「放課後等デイサービス事業所」として玖珠町（大字帆足）に開設されました。
子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを目指し、子どもたちの“こころ”に寄り添いながら発達を支援しています。

放課後等デイサービス事業
学校に就学しており、授業の終了後または休業日に支援が必要と認められた障がいのある児童・生徒に対して、必要な訓練、社会との交流の促進などの支援を行います。

Vol.17

町長コラム



とびらをあけて

九重町長 日野 康志

この時期になると、昨年の豪雨災害のことを鮮明に思い出します。線状降水帯によって思いもしない量の雨が降り、河川が氾濫して家屋にも大きな被害をもたらし、道路や耕作地も大きな被害が出ました。災害後、早期の復旧復興に向けて全力で取り組んでいますし、避難所の備蓄品を拡充するとともにコロナ感染症対策を講じてきましたが、災害シーズンを迎え再び起こらない事を祈るばかりです。

また、新型コロナウイルス感染症も変異株の新たな台頭で、1年半にも及ぶ感染状況が続く中、経済の低迷により観光業をはじめとした関係するあらゆる産業が大変な苦境にさらされており、一刻も早くこの状況から抜け出さなくてはなりません。その為にも、ワクチン接種を計画通りに進め、早期に皆さんの安全を確保することが大切です。これまで、65歳以上の高齢者の接種は順調に進んでおり7月末には終了します。64歳以下の住民への接種もこれから順次進めて参りますので、皆さんのご協力をよろしく願います。引き続き、経済対策についても、状況を判断しながら必要な時に必要な対策を実施して参ります。

さて、昨年開催予定だった「第5回山の日記念全国大会」が延期され、本年度開催されます。山に感謝する日として制定された祝日として、8月11日に九重町で記念式典と記念行事が文化センターで、歓迎フェスティバルが長者原園地にてそれぞれ開催されます。「山に遊び恵みをいただく」をテーマに、石丸謙二郎さん（俳優）、芹洋子さん（歌手）、三浦豪太さん（プロスキーヤー）、工藤夕貴さん（女優）、南谷真鈴さん（探検家）などの皆さんが参加して頂きます。全国大会が九重町に来ますので、住民の皆さんもぜひ参加して「山の日」を楽しみましょう。

また、本年は佐世保市と九重町の姉妹都市提携30周年を迎えます。佐世保市との交流のあゆみは、この町報にも掲載していますのでそちらをご覧ください。先人たちが築いていただいた礎を基に、今後の友好交流をさらに発展していくためにも、一つの節目としてこの提携30周年の記念行事は大切なものです。今回は、九重町で開催されますので、コロナ禍の中ではございますが、感染対策を取りながら実施して参ります。

コロナや豪雨災害は、多くの人々に傷跡を残していますが、新しく生まれるものもあります。厳しい時ですが、お互いが支え合い助け合える社会をもう一度創らなくてはなりません。人口が減少しても、持続可能な社会を創らなければなりません。ピンチをチャンスに変える、言葉は簡単ですが実行することは大変です。しかし大変な事だからこそ、やりがいもあります。多くの仲間と共に、これからの九重町へ、新たな九重町へ突き進んで参りましょう。



第87回 ふるさとの文化財探訪

小藩分立の影響を受けた県民性と郷土

文化財調査員 佐藤 頼久

大分の地名の由来は、北九州六ヶ国（豊前、豊後、筑前、筑後、肥前、肥後）を支配する大名の肥後（大友宗麟の「大」と彼の息子（義統）の無能ゆえに秀吉により改易され、領地配分の草刈り場となった、小藩分立の「分」から大分となったと歴史的に考察するとしくりくる。

まず、秀吉の家臣に与えられ、関ヶ原の戦いの時、黒田如水や加藤清正に荒らされ、関ヶ原後には家康の家臣達に恩賞地として細かく分封された。

このように大分の歴史は、宗麟時代の大きな国と江戸時代の十四もの小藩分立という小さく分けられるものとなった。そこで県民性として小さく狭い所で約三百年間暮らしてきたので、心も狭くなり、重箱の隅をつつくような小賢い性格となり、赤猫根性という他人の足を引っ張ったり、出る杭は打つ偏屈なものとなった。

リードする大立者として「学問のすゝめ」を著わし、慶応義塾を創立するなど一万円札の顔となった。

わが玖珠郡も森藩（殿様は久留嶋氏）と天領に分かれ、天領側の方が幕府の直轄地として優位に立ち、他を見下していたような感じだった。そういう歴史ゆえなのか!? 近年の町村合併問題が生じた時も、すんなりと合併という風にはゆかなかった。

享保四（一七一九）年八月には、平家山（野上村）と森藩領の日出生村の山境論争が起こった。俗に言う「平家百猿伝説」であり、猿八十七匹を射殺したという表現は、日出生村の訴えを退け、野上村の主張が八割方以上認められたという間接的な勝利宣言だととめることができます。（広報ここのえ二〇一六年六月号参照）



幸せになろうね



No.299



1896年の近代オリンピック第1回アテネ大会では、女性の参加は認められていませんでした。女性の参加は第2回のパリ大会から認められたそうです。それでも大会出場選手997名のうち、女性は約2%のわずか22名でした。

日本人選手が初めて参加したのは、第5回ストックホルム大会です。しかし、日本人女性選手が参加するのは第9回アムステルダム大会で男性42名に対して女性は人見絹枝選手1名のみでした。

社会教育課